

雪合戦の歴史と遊び方（さんべ版）

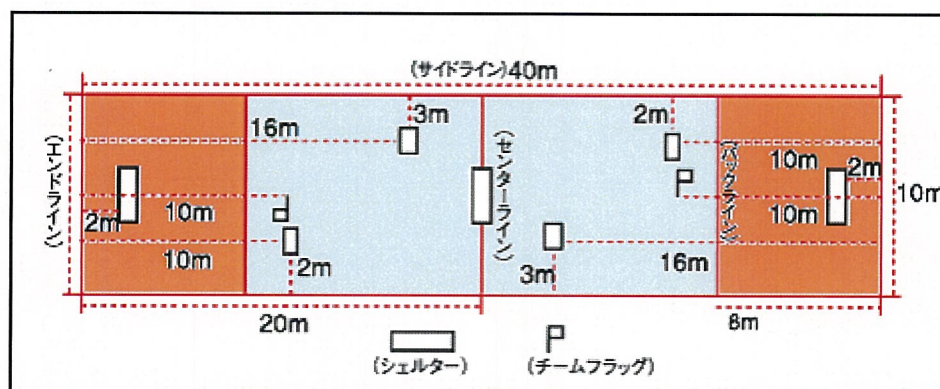
雪合戦は、1987年、冬季の地域活性化のためのイベントとして、「雪合戦」を現代風アレンジしてスポーツとするための試みが始まった。そして1988年に雪合戦の公式ルールが制定され、以後北海道内各地でそのルールに基づいた雪合戦大会が実施されている。日本雪合戦連盟ルール委員会の所在地は北海道の壮瞥町にある。

用具

ヘルメット・ゼッケン・靴

人数

競技者：7名、補欠：2名、監督：1名（1チーム）



- 用具は、ヘルメット、ゼッケン。
- 1チームは7名で、FW（フォワード）4名、BK（バックス）3名。
FWは、自コートバックラインより前で競技する。
BKは、自コートバックラインより後ろで競技する。
FWがアウトになった場合、BKがFWになることができる。
- ゲームは相手チームフラッグを取るか、雪球の直撃で相手チームプレイヤーをより多く退場させた方の勝ちになる。
- コート内にはシェルター（壁）が合計7個あり、この防護壁を利用しながら相手チームのフラッグを取る。
- 1セット3分を基準とし、3セットを行う。勝敗の決定は、ポイント数とする。
チームフラッグをとったときは、10点。競技者全員をアウトにしたときは、10点。
勝敗が決定しない場合は、残った競技者に各1点を与える。
- 1チームの持ち球は90個。手に持てる雪球以外はすべてシャトー裏側の雪球ケースに入れておく。雪玉の受け渡しは手渡ししか転がして渡す他に方法が無く（コート上に置いて渡すのも可）、いかに雪玉を受け渡すかが勝敗の別れ目となる。
- アウトとなる場合：雪球が当たったとき。
片足が、サイドライン・エンドラインを踏み越えたとき。
FW、BKが、自コートバックラインを踏み越えたとき。
規定以外の雪球を使用したとき。
※アウトになった競技者は、コートの外にでる。